

実践事例や教材の活用事例等、英語科の先生方に参考にしていただける情報をお届けします。

実践
紹介

語彙量が読解理解に与える影響
—中学生による実践調査から—

江東区立深川第一中学校
紺野 正典

既知語率の違いで読解はどう変わるか

英語の中で、もし知らない単語が2割あつたらどこまで理解できますか。本調査では、中学生の英文読解を通して、「テキストの既知語率」が理解度に与える影響を検証しました。その結果は、語彙学習の重要性を改めて示すものでした。

●検証について

Nation (2001) は、語彙理解が80%では内容理解は「困難」であり、95%で「概略の理解が可能」、98%で「精読が可能」と指摘しています。本実践調査では、中学3年生54名を対象に、テキストの既知語率を操作した英文読解課題を用い、既知語率の違いが読解にどのような影響を与えるかを検証しました。

●方法

生徒の個人差を考慮して、2年生までの既習文法で、生徒たちが十分読める難易度と思われる英文（約100語）を3種と、それぞれの英文に対して、英問に対する多肢選択問題（選択肢は英答4つ+「英文が読み取れないのでわからない」の5つ）を1問準備しました。

準備した英文の2割の単語を空白に置き換えて既知語率80%の条件で出題した後、記憶の影響がある程度排除できる期間を約4週間とする先行研究を参考に、1か月間隔をおいて同じ英文を既知語率95%の条件で出題しました（次ページに実際の英文例を掲載）。

●結果

調査の結果、4項目のデータを得ました。

1. 2回のテスト（長文ひとつにつき1問1点、最大3点）の平均点

【既知語率80%英文】0.76点（100点換算で25.3点）（標準偏差1.013）

【既知語率95%英文】1.67点（100点換算で55.7点）（標準偏差1.27）

2. 2回のテストでの成績推移

（※2回のテストで両方とも3点を挙げた生徒は除く）

【下がった生徒】9人 【変わらなかった生徒】14名 【上がった生徒】27名

3. 3問とも正解だった生徒の数

【既知語率80%英文】5人（9.3%） 【既知語率95%英文】22人（40.7%）

4. E「英文を読み取れないので、解答はわからない」と回答した数

（※全員が3つの試験でEと回答した場合は、3×54人で162となる）

【既知語率80%英文】82（50.6%） 【既知語率95%英文】24（14.8%）

初回テスト / 既知語率80% (3番目と7番目の単語を消した英文)

Akiko is () high school student () Tokyo. She doesn't want to () around the world. () thinks that Japan is the () country in the (). She was not interested in () the U.K. to () English on a school trip. () day, her best (), Yuki said, "I want to () Big Ben in ()." Akiko was surprised, but she () to support her (). Finally, she decided to try () abroad with her. () she walked around London with (), she found many () buildings. She felt that traveling () a friend was () and fun.

1か月後 リテスト / 既知語率95% (20番目の単語を消した英文)

Akiko is a high school student in Tokyo. She doesn't want to travel around the world. She thinks that () is the safest country in the world. She was not interested in visiting the U.K. to study English on () school trip. One day, her best friend, Yuki said, "I want to see Big Ben in London." Akiko was (), but she wanted to support her friend. Finally, she decided to try traveling abroad with her. When she walked () London with Yuki, she found many beautiful buildings. She felt that traveling with a friend was safe and fun.

設問 (80%・95%共通)

Which is true according to the story?

- A. Akiko was interested in learning English in a foreign country.
- B. Yuki did not want to see Big Ben in London.
- C. Yuki thought that traveling with a friend in Japan was interesting.
- D. Akiko finally visited the U.K. because she wanted to support Yuki.
- E. 英文を読み取れないので、解答はわからない。

●考察

本調査の結果、既知語率の違いが中学生の読解理解度に明確な影響を与えることが示されました。特に、既知語率80%の条件では平均得点が25.3点にとどまったのに対し、95%の条件では約30ポイント高い55.7点を示し、学習者がテキスト内容をより正確に理解できることが明らかになりました。この結果は、Nation (2001) が指摘する「語彙理解が95%に達すると概略理解が可能になる」という理論的基準と一致しています。

教育的示唆として、本調査は語彙指導の重要性を改めて示すものです。すなわち、生徒が英文をおおまかに理解するためには、およそ95%の既知語率を確保することが効果的であり、生徒の語彙量を増やすとともに、教材開発や授業設計の段階で既知語比率を意識的に高めることが理解支援につながると考えられます。最後に、調査を受けた生徒の感想を紹介します。

「2回の語彙テストを受けて」生徒の声

難しい英文を読む時、「確かにこんな感じだなあ、なんとなくわかるけど全体として細かい部分がわからない。」と思いました。8割の単語では、ほとんどわかりませんでした。単語が大事だと痛感しました。



確かにテストなどで難しい英文に会うと、こんな感じで全然意味が分かりません。知らない単語があると全体の内容もほとんど入ってきません。単語の重要性がよくわかりましたので、これからは今以上に「英単語99%」で単語を身につけたいと思いました。

【参考文献】 Nation, P. (2001). *Learning Vocabulary in Another Language*, Cambridge University Press.

■秀学社は中学校の英語教材を発行しております。教材についてご要望がございましたら、秀学社HP「お問い合わせフォーム」まで、ぜひお知らせくださいませ。

秀学社HP
<https://www.shugakusha.co.jp>

